

## 咲き誇る花

森野 水琴

今年も桜の季節になった。

男から誘われて、女も花見にでかけた。

桜並木を見たたん、男は心を奪われたように称賛する。

毎年のことながら、女は憂鬱になる。桜が相手では勝ち目が無い。

やがて散りいく定めを知ってか、知らずか、ゆったり咲く桜。まるで滝になる前の川の流れのようである。

散りぎわまで、男の美学であるかのように、花道と称賛される。残された女の哀愁は忘れられてしまっている。

花見に来たことを今年も女は後悔している。

この時期だけ男を魅了してしまう桜。

見上げると満開の桜。